

Osaka Medical College Hospital

大阪医科大学附属病院
小児科専門研修プログラム



01 1. 大阪医科大学附属病院小児科の特色

01 2. 大阪医科大学附属病院小児科研修プログラムの概要

02 3. 大阪医科大学小児科 指導医・専門医

03 4. 当研修プログラムの到達目標・研修方法・研修内容

- 04 当研修プログラムの年間スケジュール
- 05 当研修プログラムの週間スケジュール（大阪医科大学附属病院）
- 05 各専門グループカンファレンス
- 06 研修内容
- 10 関連診療科との定期的な症例検討会など
- 11 ハンズオンセミナー
- 11 当研修プログラム参加施設
- 12 研修モデルと受け入れ人数
- 13 取得できる専門医
- 13 参加学会

13 5. 研修評価・就業環境・修了判定など

1. 大阪医科大学附属病院小児科の特色

新生児／低出生体重児を扱う NICU ではハイリスク分娩にも立ち会い、急変すれば直ちに蘇生処置等を行う周産期医療の中心的役割を担っています。さらに循環器疾患、神経疾患／発達障害、内分泌疾患、アレルギー／膠原病、腎臓疾患、血液／悪性腫瘍疾患、消化器疾患、心身症など「子どものすべて」を扱う体制を整えているのが特色です。また、それぞれのユニットは協力して感染症等のプライマリケアと救急対応を実践することを通して、大学病院の高度な総合医療を地域に還元することを目指しています。



玉井 浩 教授

新生児から成人になるまで（思春期）のダイナミックに変化するライフステージを対象にしていますが、小児科医の基本的視点を養成するため に、新生児／乳児からの正常な身体的／心理的な発達過程を理解することを重視しています。入院は、一般病棟（65 病棟）は 37 床ですが、複数 の他病棟の個室を使用しています。その他、NICU9 床、GCU10 床を有しています。外来は 1 日平均患者数 100 ～ 120 名ですが、すべての専門領域をカバーしています。 関連施設として LD センターを有し、連携して学習障害児などに対して言語コミュニケーション指導を行っています。

2. 大阪医科大学附属病院小児科研修プログラムの概要

小児科医は成長、発達の過程にある小児の診療のため、正常小児の成長・発達に関する知識が不可欠で、新生児期から思春期まで幅広い知識と、発達段階によって疾患内容が異なるという知識が必要です。さらに小児科医は general physician としての能力が求められ、そのために、小児科医として必須の疾患をもれなく経験し、疾患の知識とチーム医療・問題対応能力・安全管理能力を獲得し、家族への説明と同意を得る技能を身につける必要があります。

本プログラムでは、「小児医療の水準向上・進歩発展を図り、小児の健康増進および福祉の充実に寄与する優れた小児科専門医を育成する」ことを目的とし、一定の専門領域に偏ることなく、幅広く研修します。専攻医は「小児科医は子どもの総合医である」という基本的姿勢に基づいて 3 年間の研修を行い、「子どもの総合診療医」「育児・健康支援者」「子どもの代弁者」「学識・研究者」「医療のプロフェッショナル」の 5 つの資質を備えた小児科専門医となることをめざしてください。

専門研修 3 年間のうち 2 年は大阪医科大学附属病院一般病棟で感染症・呼吸器疾患・内分泌代謝疾患・心身症・血液腫瘍疾患・アレルギー疾患・膠原病・消化器疾患・腎泌尿器疾患・循環器疾患・神経疾患を担当医として研修し、周産期センター NICU で新生児疾患・先天異常疾患を 6 か月研修します。残る 1 年間は連携病院で 1 年間それぞれ担当医として研修します。3 年間を通じ、外来での乳児健康診査と予防接種などの小児保健・社会医学の研修と救急疾患の対応を担当医として研修します。なお、重症心身障害児医療は、大学附属病院研修期間中に高槻市立療育園、西宮市立わかば園、藍野療育園で学ぶことができます。

当大学附属病院は大阪府三島医療圏に位置し、近隣の大阪府三島救命救急センター（3 次）および高槻島本夜間休日応急診療所（1 次）からの入院要請を積極的に受け入れています。そのため、小児科各専門領域に経験豊富な専門医を配置して高度専門医療に対応するだけでなく、1 次から 3 次までの救急患者を受け入れる体制も有しているため、救急疾患の対応、急性疾患の管理も研修できる施設です。

3. 大阪医科大学小児科 指導医・専門医

氏 名	配置基準対象 専門医	指導医	専門医名称	指導医	専門医名称	指導医	専門医名称	指導医
玉 井 浩	小児科専門医	●	小児神経専門医	●	日本小児栄養消化器肝臓病 学会認定医		日本小児精神神経学会認定医	
余 田 篤	小児科専門医	●	日本超音波医学会専門医	●	日本消化管学会胃腸科認定医		日本小児栄養消化器肝臓病 学会認定医	
荻 原 享	小児科専門医		日本周産期・新生児医学会 周産期専門医（新生児領域）	●				
片 山 博 視	小児科専門医		日本超音波医学会専門医	●	日本小児循環器専門医	●		
芦 田 明	小児科専門医	●	腎臓専門医					
高 谷 竜 三	小児科専門医		日本小児栄養消化器肝臓病 学会認定医					
瀧 谷 公 隆	小児科専門医	●	日本小児栄養消化器肝臓病 学会認定医					
新 田 雅 彦	小児科専門医	●						
井 上 彰 子	小児科専門医	●	血液専門医	●	日本小児血液・がん専門医	●		
島 川 修 一	小児科専門医	●	小児神経専門医		日本てんかん臨床専門医	●		
長谷川 昌史	小児科専門医		日本周産期・新生児医学会 周産期専門医（新生児領域）					
岡 本 奈 美	小児科専門医		日本リウマチ専門医	●	日本アレルギー専門医			
山 岡 繁 夫	小児科専門医		日本周産期・新生児医学会 周産期専門医（新生児領域）					
岸 勘 太	小児科専門医		日本小児循環器専門医	●				
尾 崎 智 康	小児科専門医							
青 松 友 槻	小児科専門医	●	日本超音波医学会専門医		日本小児栄養消化器肝臓病 学会認定医			
安 井 昌 子	小児科専門医							
松 村 英 樹	小児科専門医	●	腎臓専門医		日本臨床腎移植学会認定医		日本小児感染症学会 ICD	
福 井 美 保	小児科専門医	●	小児神経専門医		日本てんかん臨床専門医			
稲 富 直	小児科専門医							
吉 田 誠 司	小児科専門医	●	日本小児心身医学会専門医		心身医学専門医			

4. 当研修プログラムの到達目標・研修方法・研修内容

3 年間の小児科専門研修では、日本小児科学会が定めた「小児科医の到達目標」のレベル A の臨床能力の獲得をめざして研修を行います。到達度の自己評価と指導医からのアドバイスを受けるために、「小児科専門研修手帳」を常に携帯し、定期的に振り返りながら研修を進めてください。（到達目標など、詳細は小児科ホームページの資料を参照してください。）

小児科（科長：玉井 浩）および、新生児科（科長 荻原 享）の合同プログラムを作成し、研修を行っています。一般病棟(65 病棟) に 37 床、周産期センター NICU9 床、GCU10 床を有し、複数の他病棟も使用しています。外来では新生児から幼児期、学童期、思春期にいたる小児および 小児期からの疾患でキャリアオーバーした成人を対象に診療しています。研修内容は、一般・身体的疾患について診療を行い、小児救急医療から健康小児の健康診査に至るまでの小児に関する総合診療を行うことを目的としています。診療領域は、感染症全般、循環器疾患、消化器疾患、神経疾患／染色体疾患、心身症・起立性調節障害、血液・腫瘍性疾患、アレルギー・膠原病疾患・ワクチン、腎臓疾患、内分泌疾患などです。また、日常の臨床から得られる様々な疑問を深くほり下げ、臨床研究が可能なレベルまでに指導を受けることができます。具体的には、学会報告や症例報告、臨床研究から論文作成を積極的に行います。小児科専門医は初期研修修了後 3 年の研修で受験可能であり、その到達目標を達成することを目的としています。



当研修プログラムの年間スケジュール

月	対 象	スケジュール	
		院内スケジュール	学会スケジュール 対象:1~4年次
4 月		1年次 研修開始ガイダンス（研修医および指導医に各種資料配布） 2年次・3年次 研修手帳を研修管理委員会に提出しチェックを受ける 研修終了予定者（4年次） 研修手帳・症例レポートなどを研修管理委員会へ提出し、終了判定を受ける。 研修管理委員会 研修終了予定者の終了判定を行う ● 2年次、3年次専攻医の研修進捗状況の把握 ● 次年度の研修プログラム、採用計画などの策定	● 日本小児科学会学術集会 ● 各専門領域の学術集会*
	1年次		
	2年次・3年次		
	研修終了予定者（4年次） 研修管理委員会		
5 月	研修修了者	● 専門医認定審査書類をチェックする	● 日本小児神経学会
6 月	研修修了者	● 専門医認定審査書類を専門医機構へ提出	● 小児科専門研修プログラム合同勉強会（同門会）・歓迎式・修了式 ● 大阪小児科学会 ● 日本小児腎臓病学会 ● 日本小児救急医学会
7 月			● 日本小児循環器学会 ● 日本周産期・新生児医学会
8 月			● 小児科専門医取得のためのインテンシブコース ● 大阪医科大学附属病院小児科専門研修プログラム合同勉強会 ● 各専門領域の学術集会
9 月	研修修了者 1~3年次 専門医・指導医	研修修了者 小児科専門医試験臨床能力評価（MINI-CEX）を4~9月に1回受ける。 ● 研修手帳の記載、指導医との振り返り 専門医・指導医 専門医更新、指導医認定・更新書類の提出	● 大阪小児科学会 ● 日本小児心身医学会
10 月	研修管理委員会	● 研修の進捗状況の確認 ● 次年度採用予定者の書類審査、面接、筆記試験	● 北摂4医師会小児科医会 ● 日本小児内分泌学会 ● 日本小児リウマチ学会 ● 日本小児栄養消化器肝臓学会
11 月	研修管理委員会	● 次年度採用者の決定	● 日本小児血液・がん学会 ● 三島小児救急医療勉強会 ● 小児集中治療ワークショップ（学会に移行予定）
12 月			● 大阪小児科学会 ● 小児科専門研修プログラム合同勉強会（冬季学術集会）・納会 ● 各専門医領域の学術集会
1 月			● 各専門領域の学術集会
2 月			● 北摂4医師会小児科医会 ● 各専門領域の学術集会
3 月	1~3年次 指導医/指導責任医 専門医・指導医	1~3年次 研修手帳の記載、指導医との振り返り ● 研修プログラム評価 指導医/指導責任医 360度評価の実施 専門医・指導医 専門医更新、指導医認定、更新書類の提出	● 近畿小児科学会 ● 各専門領域の学術集会

※各専門領域の学術集会
日本小児循環器学会、日本小児腎臓病学会、日本小児神経学会、日本小児心身医学会、日本小児血液・がん学会、日本小児内分泌学会、日本小児リウマチ学会、日本周産期・新生児医学会、日本小児栄養消化器肝臓学会、日本小児救急医学会などの総会、地方会

当研修プログラムの週間スケジュール（大阪医科大学附属病院）

	月	火	水	木	金	土・日
7:30-8:00		抄読会				
8:00-9:00	症例検討会 入退院報告		受け持ち患者の把握			
9:00-12:00	病 棟	一般外来 学生・初期研修医 の指導	病 棟	一般外来	病 棟	週末日直 (2/月) 第2・4土および 日・祝日は休診
12:00-13:00						
13:00-17:00	病棟 学生・初期研修医 の指導	病棟 学生・初期研修医 の指導	病棟 学生・初期研修医 の指導	病棟 学生・初期研修医 の指導	重症回診 新患回診	合同勉強会 (年 3 回) 各種研究会
	総回診	チーム回診	チーム回診	チーム回診		
17:00-17:30	患者申し送り					
17:30-19:00	各専門グループカンファレンス（下記参照） 指導医とともにふりかえり（1/ 月）					
	当直（1/ 週）					

各専門グループカンファレンス

新生児 G	周産期カンファレンス（月曜日 17:00 ~）
血液 G	小児血液・腫瘍グループカンファレンス（火曜日 17:30 ~） 幹細胞移植カンファレンス（金曜日 15:30 ~）
循環器 G	小児循環器合同カンファレンス（木曜日 18:00 ~） 心臓カテーテルカンファレンス（木曜日 19:00 ~）
神経 G	神経病棟カンファレンス（月曜日 17:00 ~）
消化器 G	消化器カンファレンス（火曜日 17:00 ~）
アレルギー・膠原病 G	膠原病抄読会（2回/月、火曜日夕方）
心身症 G	心身症カンファレンス（隔週月曜日 17:00 ~）
腎臓 G	腎臓グループカンファレンス（火曜日 17:00 ~）



小児循環器合同カンファレンス風景



血液・腫瘍グループカンファレンス風景

研修内容

NICU を含めた複数のユニットをローテートすることができる。

- 大阪医科大学周産期センターは新生児医療黎明期の開設以来 30 年を越える歴史があり、現在では、400g 未満の症例を含めて、在胎週数 28 週末満、出生体重 1000g 未満の超早産超低出生体重児の生存退院率は 95% 近くに達し、大学病院付属の周産期センターとしては、全国屈指の施設の一つである。日本周産期新生児医学会の新生児専門医基幹施設であると共に、OGCS（大阪産婦人科相互援助システム）の基幹病院でもあり、胎児診断症例の母体搬送も数多い。対象疾患は、新生児外科症例を含めほぼ全てを網羅し、幅広い症例を経験できる。また、新生児慢性肺疾患研究では世界的な業績を上げており、臨床研究から基礎研究まで、蓄積してきたノウハウを駆使して、充実した研究生活を堪能できるはずである。



NICU 風景

- 循環器疾患領域では、年間 100 件以上の先天性心疾患の手術件数があり、小児心臓血管外科医とともに周術期管理を行っている。また胎児心臓病超音波検査施設に認定されており、数少ない小児カテーテルアブレーション治療が可能な施設でもある。先天性心疾患の診断、病態把握、治療、周術期管理、川崎病の診断と急性期治療、小児心不全治療、小児不整脈の診断と治療を理解・習得し、川崎病の冠動脈エコー検査、先天性心疾患のエコー検査、心臓カテーテル検査などについて習得することができる。
- 消化器領域では腹部疾患全般において、腹部 X 線、超音波、CT などによる画像診断の学習ができる。また、乳児肥厚性幽門狭窄症の診断と治療や、腸重積の診断と超音波整復は古くから当施設では実施している。同時に急性腹症に対する診断と治療、炎症性腸疾患や慢性肝疾患に対する超音波、消化管内視鏡、肝生検なども施行していて、炎症性腸疾患、硬化性胆管炎、代謝疾患を含めた慢性肝胆膵疾患についても経験することができる。人工補助肝療法や血球除去療法などの浄化療法も必要に応じて施行している。また、当科では超音波、消化管内視鏡、肝生検なども小児消化器医自身が全例施行し、現在も複数の超音波専門医、指導医、小児消化器病専門医が診療に従事しており、種々の疾患が経験でき、画像診断などの手技についても修練できる。

- 血液・腫瘍グループでは、白血病・悪性リンパ腫を含む各種血液疾患から固形がん全般にわたる小児血液腫瘍領域すべての疾患について診療を行っており、小児血液腫瘍医としての総合的な研修が行える。日本小児がん研究グループ (JCCG) に属し、最新の治療研究を行うように努めている。また血液内科と共に非血縁者間造血幹細胞移植施設・骨髄採取施設に認定されている。日々の診療により、骨髄穿刺、骨髄生検、腰椎穿刺、髄腔内注射、中心静脈カテーテル挿入などの基本手技を習得すること、輸血療法、抗がん剤治療、造血幹細胞移植、免疫低下時の感染症治療などの知識を習得することが可能である。

研究に関しては、急性前骨髄球性白血病患者におけるレチノイン酸薬物動態、白血病及び神経芽腫細胞株における新規レチノイド化合物のポトース誘導機序やエピジェネティクス機構の解明などを中心に臨床研究 / 基礎研究を進めている。



消化管内視鏡検査

- 神経疾患領域では、小児期に発症する神経疾患全般、発達遅延をきたす症例、学校や日常生活に困難をきたす発達障害の症例を診療しており、広い領域を網羅している。小児神経専門医認定施設・てんかん学会認定研修施設でありスタンダードな診療技術を習得できる。特にけいれん性疾患においては、ビデオ脳波同時モニタリングを用いた脳波分析による診断法を習得できる。また LD センターでは学習障害の診断や診療を 10 余年にわたって行っており、

小児の高次機能分析の最先端を学べる。研修で経験した症例を論文化することにも重点をおいており、アカデミックな研修環境を目指している。研究では神経疾患の動物モデルを用いた基礎研究・けいれん性疾患や高次機能障害の臨床研究を進めている。



膠原病グループカンファレンス風景

- アレルギー疾患領域では小児気管支喘息や、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎等を診療している。小児科診療においてアレルギー性疾患は感染症についで多い common な疾患である。気管支喘息ではモストグラフを含む呼吸機能検査を、食物アレルギーでは食物負荷試験や緩徐型免疫寛容誘導（いわゆる経口減感作療法）を施行しており、診療ガイドラインに基づき、精密かつ個々の状況に合った診療・管理指導を取得できる。

- 小児リウマチ性疾患（若年性特発性関節炎・SLE・若年性皮膚筋炎など）領域では、希少疾患であり成人とは異なった病態生理を示すため、基点病院として専門診療を行っている。慢性の全身疾患かつ思春期発症が多く、内科・眼科・皮膚科・整形外科・リハビリテーション科等他科および心理士・ソーシャルワーカー等と連携した綿密な診療を習得できる。小児の関節エコーは専門医指導のもと読影・実技を行う事ができる。

- 腎臓疾患領域では、検尿沈査の見方から腎生検に至るまで、正確な診断を下すための検査ツール（検尿沈査の読み方、腎臓を観察するための腹部超音波検査、VCUG や DIP、CT、MRI などレントゲン検査、DMSA シンチやレノグラムなどの核医学検査、腎生検、生検組織標本の病理診断など）を的確に選択、実践し、結果を正確に判読する。この検査結果に基づく正確な診断をもとにエビデンスに基づく治療法を選択している。末期腎不全患児に対しては在宅腹膜透析管理や腎移植など各関連科と強調し腎代替療法を導入している。これらの手技、診断のアルゴリズム、治療法選択が習得できる。研究面においては、多くの小児腎疾患（IgA 腎症、ネフローゼ症候群など）に対するフリーラジカル障害の関与を明らかにすることを目的とした基礎研究 / 臨床研究をすすめている。



腎生検

- 心身症疾患領域では、起立性調節障害の診断に必要なフィナプレス起立試験検査法や、自律神経機能評価法を習得できる。臨床心理士による治療介入もしており、心理テストの解釈や心理療法の習得もできる。また、軽度発達障害の診療および治療法についても習得できる。他に

関西医大とともに野外キャンプによる不登校への治療介入も行っており参加もできる。

心身症・自律神経グループは、子どものこころの診療方法の開発について心身両面から研究している。とくに、ハイテク装置を導入した脳循環、体循環のリアルタイム解析と生体リズムや生体ゆらぎを用いて、子どものこころの状態との関係を明らかにしている。

- 内分泌代謝疾患領域では、間脳・下垂体疾患、甲状腺疾患、副腎疾患や 1 型および 2 型糖尿病、肥満症、拒食症、夜尿症などの診療を行っている。生活習慣病に関しては行政と連携し検診事業に参加できる。また、1 型糖尿病のサマーキャンプに参加でき、病態の理解に加え、患者家族、学校関係者、多職種医療関係者との交流を経験し、全人的医療を学ぶことができる。糖尿病、肥満症については小児科では数少ない学会認定教育施設となっている。

- 小児救急領域では、小児疾患における全領域の救急患者の初期診療を行う。生理学的病態に基づいた患者評価によるトリアージ、重篤な傷病者の病態を安定させる技能を習得するのみならず、重篤患者の集中治療の基礎を学ぶ事ができる。重篤患者を診療する技能は、Simulation トレーニングを定期的に行い習得できる。また、小児救急診療に多い感染症を始めとする common disease、外傷、虐待や小児保健に関する診療の知識と技能も習得できる。さらに、二次医療圏のみならず、全国の小児の救急医療体制や災害時医療体制でのメディカルコントロールに関与できる。

研究は、重症度や予後判定のためのバイオマーカーの探索、全国規模の疫学研究や医学教育に関し進めている。



小児救急 Simulation トレーニング風景

関連診療科との定期的な症例検討会など

- (ア) 幹細胞移植カンファレンス(毎週金曜日 15:30～) 参加者:小児科医師、血液内科医師、リハビリ科医師、口腔外科医師、病棟薬剤師、理学・作業療法士、病棟看護師、リエゾン看護師
- (イ) キャンサーボード(毎月第1木曜日 18:00～、症例に合わせて) 参加者:小児科医師、化学療法科医師、呼吸器内科医師、消化器内科医師、関連各外科医師、放射線科医師、病理部医師、がん専門薬剤師
- (ウ) 小児循環器合同カンファレンス(毎週木曜日 18:00～) 参加者:小児科医師、小児心臓外科医師、麻酔科医師、臨床工学士、ICU、病棟看護師、高槻病院の小児科医師、関西医科大学小児科医師
- (エ) 神経カンファレンス 参加者:大阪医科大学小児科研修関連施設小児科医師
- (オ) 小児消化器関連勉強会(2回/月、水曜日 17:00～) 参加者:大阪医科大学小児科研修関連施設小児科医師
- (カ) 膠原病抄読会(2回/月、火曜日夕方) リウマチ・膠原病内科と小児科医師の合同抄読会
- (キ) 免疫・アレルギーカンファレンス(1回/月、火曜日夕方) 参加者:大阪医科大学小児科研修関連施設小児科医師
- (ク) 心身症自律神経カンファレンス(1回/年) 参加者:大阪医科大学小児科研修関連施設小児科医師



小児病棟 クリスマス会の風景



ハンズオンセミナー

- 腹部超音波検査、消化管内視鏡検査
- 心臓超音波検査、心臓カテーテル検査
- アレルギー負荷試験、関節超音波検査
- 骨髄穿刺
- 腎生検
- 腰椎穿刺
- 内分泌負荷試験
- 起立負荷試験、周波数解析による自律神経機能評価
- 小児救急診療のケースシナリオ、気道管理、骨髄針、気管挿管、中心静脈穿刺



当研修プログラム参加施設

大阪医科大学附属病院(基幹病院 901床)

本プログラムの基幹施設であり、すべて専門領域の専門医・指導医のもとに研修が可能、また大学院とレジデントとの兼任が可能であり、学位習取得のため、臨床研究にも参加することができる。

大阪労災病院(678床)

南大阪地区の基幹病院としての位置づけにある病院。
市中一般感染症、ワクチン、小児救急疾患への対応について研修できる。

済生会吹田病院(500床)

大阪府北部有数の社会福祉法人立病院のひとつであり、肢体不自由児施設を併設する。
新生児、小児救急疾患への対応について研修できる
重症心身障害児の診療も可能である。

高槻病院(477床)

北摂地域にて24時間365日二次救急医療に対応する病院。
新生児、市中感染症、ワクチン、小児救急疾患への対応について研修できる。

市立ひらかた病院(335床)

北河内医療圏で唯一の24時間365日の小児二次救急医療機関。
小児救急疾患(脱水、けいれん、意識障害など)に対応、365日24時間2次救急を受けている。
エキスパートのもとに脳波、腹部エコー研修が可能である。腎生検も院内実施が可能である。

済生会茨木病院 (315 床)

大阪府茨木市内での唯一の小児科入院施設。
市中一般感染症、ワクチン、小児救急疾患への対応について研修できる。

清恵会病院 (276 床)

大阪府堺市において 1 次から 2 次小児救急に対応する施設。
小児救急疾患、感染症、ワクチンについて研修できる。

研修モデルと受け入れ人数

	大阪医科大学 附属病院 (基幹施設)	市立 ひらかた病院	済生会 吹田病院	愛仁会 高槻病院	大阪労災病院	済生会 茨木病院	清恵会病院
医療圏	三 島	北河内	豊 能	三 島	堺 市	三 島	堺 市
専攻医 3 名	1 → 2						
専攻医 2 名	1 → 2						
専攻医 1 名	1 → 2						
専攻医 1 名	1 → 2						
専攻医 1 名	1 → 2						
専攻医 1 名	1 → 2						
各施設での 研修期間	2 年間 この期間に 関連施設で の研修を週 1 ～ 2 回程度 実施する	1 年	1 年	1 年	1 年	1 年	1 年
受け入れ人数	9	3	2	1	1	1	1



取得できる専門医

小児科専門医、小児神経専門医、てんかん専門医、消化器病専門医、内分泌専門医、リウマチ専門医、小児血液・がん専門医、血液専門医、腎臓専門医、感染症専門医、アレルギー専門医、新生児専門医、臨床遺伝専門医、小児循環器専門医、漢方専門医、心身医学会専門医、超音波専門医、内視鏡専門医、救急専門医

参加学会

日本小児科学会／日本新生児成育医学会（旧称：日本未熟児新生児学会）／日本小児循環器学会／日本小児神経学会／日本小児血液・がん学会／日本小児アレルギー学会／日本小児腎臓病学会／日本小児内分泌学会／日本小児感染症学会／日本小児栄養消化器肝臓学会／日本小児心身医学会／日本小児臨床薬理学会／日本小児精神神経学会／日本小児救急医学会／日本小児リウマチ学会／日本小児放射線学会／日本周産期・新生児医学会／日本てんかん学会／日本肥満学会など

5. 研修評価・就業環境・修了判定など

本プログラムでは、専門医機構の方針にしたがったプログラムですが、独自性・独創性も持ち合わせた魅力ある研修プログラムを目指しています。

基幹施設である大阪医科大学小児科に、基幹施設の研修担当委員および各連携施設での責任者から構成され、専門研修プログラムを総合的に管理運営する「専門研修プログラム管理委員会（管理委員会）」を、また連携施設には「専門研修連携施設プログラム担当者」を置いています。専攻医の①研修評価、②労働環境の整備（過重労働の回避・休日の保障）、③（妊娠出産・疾病などによる）プログラムの変更・休止（小児科専門医受験のためには原則 3 年以上の専門研修を行わなければなりません）について真摯に対応します。

研修手帳の記載、症例サマリー、学術活動などを総合的に評価して、本プログラムの修了を判定します。研修修了判定がおりないと、小児科専門医試験を受験できません。他にも必要な受験資格がありますので、研修 1 年目から計画的に準備してください。さらに現在、小児科に特化した Subspecialty 領域としては、小児神経専門医（日本小児神経学会）、小児循環器専門医（日本小児循環器病学会）、小児血液・がん専門医（日本小児血液がん学会）、新生児専門医（日本周産期新生児医学会）の 4 領域があります（大阪医科大学小児科の研修で取得可能）。本プログラムでは、基本領域の専門医資格取得から、Subspecialty 領域の専門研修へと連続的な研修が可能となるように配慮します。Subspecialty 領域の専門医資格取得の希望がある場合、3 年間の専門研修プログラムの変更はできませんが、可能な範囲で専攻医が希望する subspecialty 領域の疾患を経験できるよう、指導医と相談しながら研修計画を立案します。指導医は、経験豊富な小児科専門医で、日本小児科学会から指導医としての認定を受けています。

詳細は大阪医科大学ホームページ (http://hospital.osaka-med.ac.jp/career_support/specialist/program_02.html) を参照してください。